

秋でも春でも!

石灰窒素で ジャンボタニシ防除!

スクミリングガイ

石灰窒素の有効成分「カルシウムシアナミド」

殺貝効果でジャンボタニシ防除。

稲刈後でも田植え前でも同じ効果が期待できます。

稲刈後に施用した石灰窒素は稲わらの腐熟促進やヒエの休眠覚醒(ヒエ防除)にも役立ちます。

使用方法(稲刈後防除のとき)

1

ジャンボタニシの活動を促すために水温が15℃以上の時期に3～4cm湛水し、1～4日放置してください。ジャンボタニシが活動を始め、水中に出てきます。

2

石灰窒素20～30kg/10aを全面にむらなく散布して、3～4日放置してください。

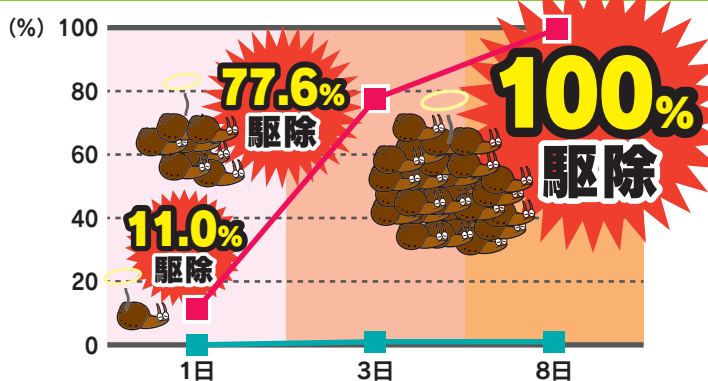
3

田面水は用水路に流さずに、必ず自然落水を待ってください。

4

田面が乾いた後、5～10cm程度浅く耕うんしてください。

秋期に圃場を湛水して石灰窒素を処理した場合のスクミリングガイに対する効果(試験事例)



※石灰窒素の施用量30kg/10a 散布時の水温31～32℃

■ 石灰窒素処理 ■ 石灰窒素無処理

田植え前防除のとき(春施用)は下記の順で使用してください

①

荒起し・湛水
(3～4日間)

②

石灰窒素散布
(20～30kg/10a)

③

3～4日放置

④

代かき・田植え
(代かき後2～3日
おいてから)

使用上の注意

- 石灰窒素の魚毒性はB類です。散布は水田だけにしてください。
- 降雨前の散布は避け、田面水があふれ出ないようにしてください。
- 石灰窒素は施用後、肥料として効果が出るまで3～7日かかります。代かき後、2～3日おいてから田植してください。
- 石灰窒素は窒素の基肥になりますので、春施用の場合は基肥量を調節してください。

適用病害虫・雑草名と使用方法

「国産石灰窒素」は農薬登録を取得しています。

農林水産省登録

第21076号(コープケミカル粒状石灰窒素40) 第22962号(コープケミカル粒状石灰窒素55) 第21077号(コープケミカル石灰窒素50)

■ 粒状・粉状・防散

※「野菜類」には豆類(未成熟)が含まれます

作物名	適用病害虫 雑草名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	石灰窒素を含む 農薬の総使用回数
水稲	ユリミズ	40～60 kg/10a	は種前 又は植付前	1回	散布後土壌混和	—
	ザリガニ スクミリンゴガイ	20～30 kg/10a	植代前		散布。荒起し後3～4cmに湛水し、3～4日後全面に散布、3～4日放置後植代を行う。(漏水を防止すること)	
	スクミリンゴガイ		刈取後 (水温15℃以上の時期)		散布。3～4cmに湛水し、1～4日後全面に散布、3～4日放置する。(漏水を防止すること)	
	水田一年生雑草	50～70 kg/10a	は種前 又は植付前		散布	
	ノビエの休眠覚醒 (湿田及び半湿田)	40～50 kg/10a	水稲刈取後 1週間以内		全面散布	
れんこん	スクミリンゴガイ	60～100 kg/10a	植付前		散布後土壌混和 (7日間以上放置後植付を行う)	
野菜類 豆類(種実) いも類	センチュウ類	50～100 kg/10a	は種前 又は植付前		散布後土壌混和	
	畑地 一年生雑草	50～70 kg/10a	は種前		散布	
麦類			は種前			
はくさい キャベツ	根こぶ病	100～200 kg/10a	は種前 又は植付前		散布後土壌混和	
桑	カイガラムシ類 胴枯病	温湯10ℓ当たり 400～800 g/10a	7月下旬～ 10月下旬		上澄液を株又は枝条の基部に散布する。	

■ 粉状・防散

作物名	使用目的	使用量		使用期間	本剤の 使用回数	使用方法	石灰窒素を含む 農薬の総使用回数
		薬量	希釈水量				
ばれいしょ	茎葉枯凋	10～15 kg/10a	100ℓ/10a	茎葉黄変期	1回	茎葉散布(上澄み液)	—
			—			茎葉散布	

※平成29年4月現在の登録内容です。

肥料効果

穏やかな肥効	石灰窒素は、土壌中で硝酸態窒素にゆっくりと変化します。また、有機質肥料や堆肥と併用することで、有機質由来の窒素が徐々に硝酸化し肥効が長くなります。
成分の流亡が少ない	石灰窒素は、土壌中でアンモニア態窒素に変化しますが、石灰窒素からのアンモニアは土壌によく吸着されるため流亡が少ないという特長があります。

土づくり効果

目的	使い方	期待される効果など
促成堆肥の製造	稲わらを水でよく濡らし、その上から石灰窒素をまく。これを繰り返して積み上げた後にビニールなどで覆う。	発熱が良く、成分の高い堆肥を作ることができます。
未熟有機物の腐熟促進	ソルゴー、トウモロコシなどの青刈り作物と一緒に石灰窒素をすき込む。	有機物の腐熟を早め、土壌を総合的に改善することが期待できます。
酸性土壌の改良	全面に散布し、散布後直ちに耕うんする。	土壌の酸性を直し、カルシウムとして作物に吸収されます。

- 〈使用上の注意〉
- ① 特別栽培、エコファーマー栽培で使用されるときは、各県の基準等に応じてご使用ください。
 - ② 播種または定植にあたり、7～10日前に散布し土とよく混ぜてください。
 - ③ 施肥作業後、24時間以内は飲酒しないでください。